

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'99

11

月号【1日発行】

12月2日多摩市民館 川崎市民オペラ公演



いまを話す

小規模デイサービスセンター
「コスモスの家」代表 渡辺 ひろみさん
福祉力の源は地域 人脈、得意いかし
細やかなサービス
高齢者の「心の闇」解消を

素朴な暮らしと人との出会い
「海とサルデーニャ」

D・H・ロレンス著

(晶文社、二千九百円)

多摩区菅北浦 山村辰男さん

「チャタレイ夫人の恋人」で有名な作者は、人妻と駆け落ちして国外に飛びだし旅のなかで生涯を終えたが、個性的な小説のほかに、紀行文をいくつか残している、なかでも最も親しまれているのが本書である。

作家は、名所旧跡を訪ねるような旅行は退屈といつて関心をはらわず、なにも見所のないような土地へ出掛

けている。ゆく先々で土地のたたずまいをよく見てまわり、その土地に息づく民族的個性というべき地霊を洞察し、出会った人々に対しても鋭い観察眼を働かせる。読んでみると、なにもない素朴な暮らしの残る土地へ、自ら旅してみたい気になる。

今世紀前半における見知らぬ土地を探るような旅で、上品とはいえない状況に身を置いているが滅入ったりしない。土地、そこで出会う人々への関心が強く、ときに不愉快なことがあっても、観察と考察を楽しんでいて、精神の伸びやかさを感じられる紀行である。

川崎市民オペラ

ゴールデンコンサート

ちょっと早い「オペラ通り」のクリスマス

川崎市内のある街角。屋台のおでん屋に、底抜けに明るい常連客がやって来て、アリアで楽しいやりとり……

12月2日(日)

午後6時30分開演

多摩市民館 (向ヶ丘遊園駅下車)

全自由席2,500円

■問い合わせ 同事務局 ☎(811)5383

■ほんねインタビュー いまを話す 3

ミニデイサービスセンター「コスモスの家」代表

渡辺 ひろみ さん

福祉力の源は地域

人脈、得意いかし細やかなサービス

■かわさき市民アカデミー学園祭講演 8

ジャーナリスト 増田れい子さん 「母、住井すゑを語る」

差別へ静かで粘りある憤り

弱い人間には強い愛

■はりきつてます グループ紹介 10

インテリア、小物作りを楽しむ

区刺しゅうの会 (多摩区)

●学習・文化情報／会員募集／ミニニュース／編集後記 11

□表紙絵……岡上原生林の秋(麻生区) 村楢 広義 さん

(小誌は再生紙を使用しています)

いまを話す

ゲスト

国の認可施設・小規模デイサービスセンター「コスモスの家」代表

渡辺 ひろみ さん

Vol.79



——コスモスの花のイメージに
びったりの明るい「家」ですね。
いつオープンしたのですか。

渡辺さん 今年の六月一日にオープンしました。施設という感じではなく、アットホームな「ちょっと広い居間」という雰囲気になりました。

——おふろが広くて、ゆったりとした気分になれるそうですね。

渡辺さん 家庭の浴槽ですと、足をいっぱい伸ばして入浴できませんから、みなさん気に入っていらつしやるようです。

福祉力の源は地域

人脈、得手いかし
細やかなサービス

高齢者の〃心の闇〃解消を

世紀末のいま、「地域社会」が見直されている。「コスモスの家」(多摩区三田、代表・渡辺ひろみさん)は、利用者のお年寄りも、介護するスタッフも地域住民だ。ある大都市の特別養護老人ホームは近原過疎地にある。この異なる二つの事実が「福祉の理念」を問う。コスモスの家は、国の認可施設「小規模デイサービスセンター」。渡辺代表は「利用者の気持ちにこたえるケアを心掛けています」と話す。長年にわたり、大切に育ててきた地域のひとととの相互信頼が福祉力の源なのだ。「公的介護保険制度」の来年四月施行に向け、十月から要介護認定作業が始まった。保険の理念である「介護の社会化」を地域から実体化しよう。聞き手は椎野和枝さん。

——「コスモスの家」は、ここが初めてではないそうですが、最初はどこで始められたのですか。

渡辺さん ここは多摩区三田という人口一万人の町です。十年前に、この町の真ん中にある西三田団地(公団の分譲住宅、千八百世帯)の集会所の和室で、自主事業のミニ・デイサービス「コスモスの家」をスタートさせまして、一九九五年に川崎市の補助事業になりました。この新しい「コスモスの家」は、国の認可施設「D型デイサービスセンター」(小規模、週五日開設、利用者一日八人以上)として新築しました。

——現在「コスモスの家」では、具体的にどんなデイサービスをしていらつしやるのですか。

渡辺さん デイサービスの役割は、日ごろ外出の機会が少ないお年寄りや、痴ほうの方や障害のある方の身体機能低下を抑え、メリハリのある生活が出来るようお手伝いをすることです。いま三十六人の方が利用登録をしています。ここでは、利用者が主人公で、利用者の気持ちにこたえるサービスをするのが基本、と考えています。元気な方も障害のある方も「今日

フルタイムでなく 曜日ごとにケアチーム

地域密着型 数か所の利点

「コスモスの家」で俳句カルタを楽しむお年寄りら。アタマの体操になり好評（提供写真）



は来てよかった」と満足していた
だき「また来たい」という気持ち
になっていただくことを心がけて
います。

——週に何回利用できますか。
渡辺さん 週に一、二回です。

補助事業であったミニ・デイサー
ビスのときは、規定はありません

でしたが、いまは委託事業になり
ましたので週二回までです。

——デイサービスのプログラム
はあるのですか。

渡辺さん 水曜はカルチャータ
なことをします。月・金曜は朗読

や歌、時にはゲーム遊びもします。
そして、火・木曜は障害や痴ほう

のある方を介護する日で、この日
はカリキュラムを組まないで、家
庭にいる状態で過ごせるようケア
しています。また、月一回、健康
相談の日があり、開業医の内科の
先生が来てくださいます。

——介護する家族を支援するこ
とも必要不可欠だと思いますが。

渡辺さん 年に四、五回、家族
介護教室を開くことが要綱にあり
ます。そういう機会に、いろいろ
と事情を聞いて、家族の負担を軽
減するよう援助しています。たと
えば、昼間は家族が仕事に出掛け
るので、一人になるお年寄りもい
ます。私たちがお迎えに行っても
「今日は気分が悪いから行かない」
とおっしゃる時は、こちらからお
昼のお弁当を運び、様子をみて家
族に連絡を取ります。

——家族は安心して仕事ができ
ますね。

渡辺さん これも「コスモスの
家」が、地域にあるからできるこ
となのです。こういう細かいケ
アは、家族と手を結ばないとでき
ません。これも長い経験で感じる
ことです。

——お年寄りとその家族の住む
“身近にあるケア施設”なので、

いろいろなサービスマンが可能なわけ
です。ところで、いま、スタッ
フは何人いらっしゃるのですか。

渡辺さん 時給をもらって働い
ているスタッフは、三十人近くい
ます。スタッフは、曜日ごとに五、
六人でケアチームを組んでいます。
この他に送迎チーム、調理チーム、
夕食宅配チームという編成です。

また、ボランティアの方の協力も
あります。もともと、スタッフは
フルタイムで仕事をするという条
件ではなかったわけです。けれど、
スタッフの中には、ホームヘルパ
ーや介護福祉士、ケアマネージャ
ーの資格を取った人もいます。

——「コスモスの家」で仕事を
しながら、資格を取得したのです
か。

渡辺さん ええ。子育てが終わ
って「これから何かをしようかな」
と思っているとき、「コスモスの
家」に出会い、ボランティアとし
てかかわり、そのうちに資格を取
って、今はスタッフとして仕事を
している人がほとんどです。みん
な「十年前には想像もできなかった」
と言っています。

——そうですね。

渡辺さん すべてのノウハウは、



この間にここで経験したことから生まれました。それと「地域の人が集まってできたデイケア施設」ということが大きな力になっていると思います。たとえば「夕食宅配をしてほしい」「延長ケアしてもらいたい」という要望がありますと、すぐにスタッフで話し合います。そして「私が、その方の近くに住んでいるので、夕食を届けます」とか「夫の帰りが遅いから延長ケアの一時間くらいならやれるわ」と、すぐに対応することが出来るのです。

——地域で暮らしてできた人脈が、いつの間にかネットワークづくりになっていったと。

渡辺さん そう思います。それぞれのスタッフが「PTAのグループ」「テニス仲間」というように人脈を持っていて、「調理をする人が足りない」というと、だれか

が「友達に料理を作ることの好きな人がいるから聞いてみる」と言ってくれて、その友達が「週一度なら……」と引き受けてくださるのです。

——居間に利用者の方の書や絵が飾られています。絵や書の指導もスタッフがなさるのですか。

渡辺さん これは、地域の方々ボランティアで指導に来てくださいます。朗読は劇団民藝の俳優さんですし、書道は地元の三田で三十年間書道教室をやっていた方です。絵は退職された方が趣味で習われて、教えに来て下さっています。

——ボランティアの人が、地域で活動できることはいいことですね。定年後、「自分の持っている力を、どう発揮していか分らない」という人が増えているそうです。その力を地域に還元できるシステムが出来るとうれいすね。

渡辺さん 地域に密着したデイサービス施設が、たくさん増えることを願っている一人として、そうですね。本当にうれいすね。

——気になるのは、ボランティアが行政の手足として使われているケースがあることです。特に、

何をしたいかわからない女性を「ボランティアという美名のもとにうまく利用している」という批判があるようですが。

渡辺さん 私どもも「安上がり行政の手助けをしている」と批判されたことがあります。これは「ボランティア活動をどう位置づけるか」という考え方の問題です。ここで活動しているボランティアの人たちは、少なくとも自分の意思



で通い、スタッフ同様の意識で参加している人たちです。「してあげる立場」ではなく、社会参加する中で、自分自身の在りようも変わってきます。お金に換算できないものを感じているようです。

——最初の「コスモスの家」を始められてから十年。そのきっかけは何だったのですか。

渡辺さん 十一年前に夫を亡くしまして……。夫を失った翌月から

渡辺 ひろみ さん

わたなべ・ひろみ=1934年大阪市生まれ。大阪市立大文学部卒。89年、市民組織「多摩・麻生高齢者福祉研究会」を。90年、多摩区西三田団地に自主運営ミニ・デイサービス「コスモスの家」開設し95年、市同サービス補助事業に。今6月、同区三田に国認可施設「D型(小規模)デイサービスセンター」開設し国委託事業を。この間、市高齢者保健福祉計画策定協委員。最近、NPO法人「秋桜舎」設立。現在、市高齢者福祉総合センター電話相談員。三田在住。

ら預金通帳に、なにも振り込まれなくなつたのです。当然のことですがとてもショックでした。経済的なことを考えたとき「いままで地域でしていたボランティア活動を仕事にできないだろうか」と思つたんです。それ以前に、私の両親が、大阪から私の住む団地に引っ越してきました。夫の死をきっかけに、自分の老後について考えるようになり「自分が両親の面倒だけみているうちに、ボロボロになって、今度は『私の老後はどうしてくれる』というようなことは言いたくない」と思いました。

くれない族

現状は従属的市民?!

関心と知識 主体的に行動を

突然、自立を迫られ、老後
のことを真剣に考えたわけですね。

渡辺さん これ以後で気づいた
ことですが、子どもが親を介護す



るのは、感情的になっていいケア
はできないということ。親の
ほうも娘だといひ甘えてしまいま
す。仕事という意識があれば、ど
んなことにも理性的に対処できま
す。自分の経験からも「介護の社

会化が必要」と強く思いました。
行政との関係は、いかががで
すか。

渡辺さん 私はいつも「一に議
員、二に行政マン、三に市民」と
いうのです。残念ながらこれが実
情なのです。本当は一が市民、そ
の市民を後押しするのが行政マン
でなくてはおかしいのですが。こ
の「一が市民」にするために必要
なことは、市民の意識を変えてい
くことだと思っております。みんなの
意識が変わらなければ、いつまで
も安上がり行政の手足で終わって
しまいます。特に女性は、主体的
で積極的に市民参加の行動をする
までにはなっていません。けれど
「行政はしてくれない」という批
判はします。しかし、批判するの
であれば、市政がどうなっている
のか、それなりの関心と知識を持
ち、ときには行動を起こさなけれ
ばならないのです。

——大事なことですな。

渡辺さん 私たちがここで申し
合わせていることは「くれない族
はやめよう」です。「〇〇がしてく
れない」でなくて、したいことが
あれば「私たちはこうしますから、
こういう後押しをしてください」
と主体的にやっていこうというこ
とです。

——さて、来年四月から「公的
介護保険制度」が実施されます。
すでに、要支援・要介護認定作業
が始まっています。渡辺さんは
どうお考えですか。

渡辺さん 「コスモスの家」か
ら見ると、公的介護保険というの
はまだやってはいけないと思っ
ています。なぜなら、困ったとき「い
つでも、どこでも、だれでも利用
できるのが福祉」です。介護保険
は、保険料を払わないと介護が受
けられないのです。しかも、保険

料を払ったから、介護が受けられ
るのかというと、「介護を受けた
い」と申請した後、「介護や支援が
必要かどうか」認定されるのです。
コンピューターなどによって処理
される認定結果で、支援・介護が
受けられない人が相当数出そうで
す。私見ですが、福祉に市場原理
を持ち込むべきではないと思いま
す。公的介護保険のことを勉強す
ればするほど「本当に支援・介護
を必要としている時、今以上の介
護が受けられるかどうか」という
基本の部分で不安を感じます。

——川崎市の「高齢者保健福祉
計画」が今後どうなるかも気がか
りですね。

渡辺さん この計画は、市民の
意見も取り入れて作られてしまし
たが、公的介護保険制度によって
影が薄くなったと実感しています。



椎野和枝さん

椎野 和枝さん

しいの・かずえ＝1934年、
京都市生まれ。同志社教育、広
毛利菊枝演劇研究所を卒業。経
島女性史研究会などを女性東
80年から川崎市。会、川崎共著はス
学習情報をつなぐ、川崎共著はス
大らすI」に所属。所著「テ
「続広島の女たち」。「麻生区
ト現代女性読本」。麻生区
白山在住。

ほんねインタビュー



おやつの時、輪投げで好きなお菓子を取るゲーム。足腰が鍛えられる（提供写真）

計画すべてが、平成十二年度までに実現することを願ってききましたし、「コスモスの家」は、その中のデイサービス計画によって実現したので。今後、計画がどうなるのか心配しています。

——介護保険制度の実施で、利用者の方に影響がありそうですか。

渡辺さん 認定を受けて、通ってこられる人はわずかになると思います。認定からはずれて通所でなくなる人をどうするかです。私は、行政と対立する考えはなく、むしろ、行政と市民は車の両輪と考え、今まで力を合わせ地域に一定の福祉力を作ってきたつもりで

す。介護保険制度が始まって福祉の水準を下げないよう、川崎市が独自予算で介護認定からはずれた人もこれまで通りケアを続けられるよう、私は要望を訴え続けていきます。

——ところで、お年寄りとかかわって学んだことは何でしょうか。

渡辺さん 人間、性格を変えることはできないが、年をとっても意識を変えることはできる、という事です。一人暮らしで、睡眠薬なしには眠れなかった方が、ここに通われるようになって、薬がいらないようになったそうです。お年寄りのみなさんが「いちばん怖いのは

孤独です」とおっしゃいます。ここにきて、仲間ができて癒（いや）され、夜中に目が覚めても「友達になったあの人も一人で寝ている。そう思うと安心できる」と話しています。コスモスの家は、利用者・スタッフ・ボランティアの方が、言葉にならない魅力にとり



つかれ、離れられないという意味で「ここは『アリ地獄』」と、冗談をいう人がいるほどです。

——これからの「コスモスの家」について、どのような見通しや展望をお持ちですか。

渡辺さん この地域は、個人商店が店を閉じ、スーパーとコンビニだけが幅を利かせている感じで

す。将来は「コスモス銭湯」「コスモス喫茶」「コスモスレストラン」というように、地域社会のコミュニティセンターのような存在になれたらいいと思っています。これからは、多様なサービスを組み合わせ、「住みなれた地域で一人でも暮らしていけるシステム」が求められます。コスモスの家が

「それぞれの個人の幸せを追求する権利を互いに認め合う人たちのたまり場」にしたいですね。それは一人ひとり、ジグソーパズルの一片のようなものですが、みんなが集まって、共に暮らす地域という一枚の絵をつくっていくということですね。

——渡辺さん提言の「小学校区に一つのデイサービス施設」ができたらいいですね。

渡辺さん すでに、同じような「家」が宮前区や三浦半島、和歌山県など五カ所にできています。このような「家」が全国にできることが私の夢です。

題字は高橋清・川崎市長

構成／富樫 恭子

文責／田中 閑

写真／山本 綾子

事前取材／菅原 純子



差別へ静かで粘りある憤り

弱い人間には強い愛

増田れい子さんが「母 住井すゑを語る」

かわさき市民アカデミーの会員やOBが企画・運営する「学園祭」が九月中旬、中原区の生涯学習プラザなどで開かれ、作品展示やシンポジウム・講演会などの催しがあり、多数の市民が来祭した。オーピングの講演は、ジャーナリスト、増田れい子さんの「母 住井すゑを語る」。二年前、九十五歳で逝った作家、住井すゑさんの素顔は「人間の面白さを発見することと、とことん人間を信頼すること」であった。また、代表作「橋のない川」にみられるように、人間が人間を差別することに憤り、第七部まで三十年代年間書き続けた。その精神の源は、小作農の解放を追求した夫であった。聴衆は住井さんの生き方に共感し感動した。

増田さんは、講演の冒頭で住井すゑさんが生きた九十五年間を「すごい時代を生きた」と表現した。日露戦争、第一次世界大戦、大正デモクラシー、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、敗戦、高度成長、バブル崩壊の「まがまがしいことの手づてを体験」したことを指す。

そして、話は生涯稼がなかった「私の父」に移る。増田さんが、父について「働かない」という言葉を使わず「稼がない」というのは、大きな意味があり、母の姿勢と合致する。

「母は『男は稼がなくていい。女が稼げばいい。男は世の中を変えれ

ばいい』といい、父は世の中を変えようとしていた人」と、増田さんは、母へと同様に父への尊敬を語る。

若いころの住井さんは「四人の子を育てるため、懸命に原稿を書いて生活を支え、父を愛し……」「原稿を書いて稼ぐのが母、母の原稿を点検して、原稿用紙の右角に錐(きり)で穴をあけ、きれいによったこよりで綴じるのが父の仕事」だったが、「父は辞書みたいな人で、なんでも知っていて英語にもフランス語にもたけて」いたという。

いまは原稿をファックスで送るが、そのころ「母は、原稿をふるし

きに包んで、東京の出版社に持っていった。また、住井さんは、ハンドバックなど欲しがらず「ふるしき一枚あれば十分」という人柄だった。

住井さんの日常は「児童向け月刊誌の原稿を東京の出版社に持って行き原稿料をもらって、牛久の自宅に帰ってきました。牛久駅(常磐線)から家までの三キロの道を歩いて帰る母を、私たちは一日千秋の思いで待つているのだが、増田さんが住井さんに「さびしくなかった」と聞くと「お月さんと一緒だったからね。さびしくなかったよ」と言っている。住井さんの楽道家ぶりを「とても肝っ玉が大きい人」と述べた。

ここで増田さんは、母・住井すゑ

さんのエピソードに触れた。戦後間もないころの常磐線を走る

汽車はいつも混んでいて、ある日、男子学生が、後から来る友人のために、座席に自分の帽子を置いて席取りをした。「普通の人ならそこに座りませんが、母は堂々と座るんです。その前に『この帽子つづれますよ』と警告して。後から来た学生が『おれの席をどうして取っていませんか』と『だってこのばあさんが……』と学生たちは二人掛けの座席に窮屈そうに三人で座り、いさかいを始める。そんな光景を、母は『かわいいもんだ』とただちに原稿に書き、また原稿料をもらう。なかなか商才にたけた人」でもあったという。

住井さんが「橋のない川」を書き始めたのは一九五七年。第七部が九二年に刊行されるが、「母は第八部も書きたいと思っていました。第七部の終わりは一九二八年ぐらいの設定でした。治安維持法が成立して、民主的な運動をしている人たちを弾圧し、その後、中国への侵略をはじめめるのです。そして、敗戦にいたるわけです。その間に、被差別部落の青年たちが、戦争中をどう生き抜くか。それを書き、第八部の終わりは一九四五年八月十五日、敗戦の日としたい」と思っていたと話す。

戦争中、水平社宣言を起草した西

かわさき市民アカデミー 学園祭講演

光万吉さんも、むりやり転向させられ、戦争に協力せざるを得ない状況のなか、部落解放運動は弾圧されて解体させられる「苦難の時代がありました。戦争というのは、人間の命の保障がなくなるだけでなく、あらゆる知恵をも奪い去ってしまう。生きる自由も、考える自由もなくなり、国家権力の言いなりになるロボットに変えられてしまう。私は、戦争をもっと深く学んでおかなければいけないと思います」と増田さんは切々と話す。

水平社宣言は「人間は一人ひとりがかかけえもなく尊いのだ。命が尊い」と記し、日本の歴史の中で「はじめて人間の尊厳について明らかにした宣言です。苦難の歴史の中で、一番つらい思いをした人が『人間の尊厳』を言い当てたわけです。でも、戦争は人間の尊厳をむちゃくちゃにしました。私の兄も戦争に行きました。母は戦争中の苦難や矛盾を、第八部で書き込みたいという思いを強烈に持っていたと思います。でも、母は体力が続きませんでした。働き過ぎたからでは……」としんみりと語る。

ところで、増田さんの父・犬田卯さんは、なぜ稼がなかったかは、その生い立ちにもかかわる。

住井さんの夫・卯さんは、茨城の

小作農のせがれ。小作人は、収穫量の半分を地主に納めなければならぬという過酷な現実があった。

増田さんはいう。「父は、小作の人たちが食べられるように制度を変えたいという烈々たる思いがあり、小作解放運動にかかわり『小作解放運動は天皇制を倒す運動ではないか』と官憲に言われ束縛」された。また、小作制度についての論文を書けば罰金の対象になり、勤めていた出版社も追放された。

つまり、「自分の理想を追求しようとする、食うや食わずにならざるをえませんでした。父は『農民』という雑誌を自費で出し、非常にがんばりました。同志もたくさんいました。その中には『圧倒的に小作に不利な地主制度を変えるべきだ』と考える農林官僚もいました。父は時代の波に抗う生活をしてきたため、肉体的に衰弱しました。ぜん息に苦しんでいる父の姿を今でも覚えています」と当時を回想する。病弱な体で売れない雑誌を作り、売れない原稿を書いている罰金を取られる「マイナスの雪だるま」の生活だったが、信念を貫き通し、終戦を迎えた。

その信念の人、卯さんが亡くなる前、精神を病んだ事実は意外な感じもする。戦後、進駐軍（主力は米軍）が日本を占領して武装解除、財閥解

体、女性参政権、教育の機会均等、などさまざまな民主的な改革をした。

その改革の中には「地主制度を解体し自作農を創設」もあった。だが、増田さんの父、卯さんにしてみれば「自分が弾圧され、体を病み、血を吐く思いで、土地解放や農地改革をしようとしてきたのに、アメリカ占領軍という新たな権力によって、自分の夢を実現させられてしまうのです。『なぜ、自分たちの手で実現できなかったか』と父はジレンマに陥り、その結果『自分の存在価値がなくなった』と自殺まで考えたのです」。

その時、住井さんはどうしたのか。「活動家なのに情けない」と見放したのだろうか。事實は、まったく逆で「父と一緒に精神病院に入院し父を六カ月間介護したという。『こういうところが母の仰天するところ』と増田さんは語る。精神を病んで入院している人たちは「母を大事にし、肩たたきをしてくれた」という。そのころ、一般的には、精神を病んだ人を人間以下だと考え怖がりたりした。「母は『人間だから病むんだ』と患者さんと付き合い『なぜ病んだか』をつかみ、差別されている人たちがどんな生活をし、どんな苦悩を体験するか」知ろうとしていたのである。「切り刻まれるような痛みや、残虐な目に遭いながら、その人たちが連

帯して、そこにすばらしい人間関係が生まれたりする。そういう人間の面白さを常に発見する、それが母の特技でした。人間というのは、複雑で一筋縄ではいかないのですが、母はとことん人間を信頼していました。人間を見ていく、知っていく、それを自分の作品の中に溶かしていく。人間をよく見るといふことについて、母は異能の人だったと思います」と淡々と話す。

まとの代わりに、増田さんは、母・住井すゑさんが一番好きな食べ物であった里芋の話をする。「お彼岸になると里芋の小芋がふくらんできます。母は畑仕事が好きで、里芋を掘り起こして洗い、小芋を四ミリぐらいの厚さに切って、お米と一緒に炊きます。だしはカツオ節、しょうゆをちよつとまわして、かまどで炊くのです。『電気釜が便利よ』といつても受けつけません。かまどで炊いた里芋ご飯が絶妙においしい。里芋ご飯は、ある料亭のメニューにもあり、その料亭の里芋ご飯と、母のご飯は似ていました。米のうまさ」と里芋のうまさを合体した里芋ご飯は、母から受け継いだとびきりの遺産」と結んだ。

住井すゑさんの「差別なき社会」への思いは、私達へのとびきりの遺産と実感した（小誌・菅原純子）。

はりきってます グループ紹介

インテリア、小物作りを楽しむ

区限刺しゅうの会(多摩区)

無地の布に、糸で一針ひと針鮮やかな模様を刺し、インテリア小物作りを楽しんでいるのは「区限刺しゅうの会」の向当禎子代表(57)ら十六人。毎週水曜の午後、多摩市民館で、和気あいあい仲間と語り合いながら、手作りに励んでいる。

この日は、ふたつのグループに分かれ、それぞれクッションとタペストリー(壁掛け)を制作する。四力月前から、お正月用に作っているタペストリーは、黒と赤のコンGRESという目の粗い綿生地、松、竹、梅の模様を刺し込んだ華やかな作品。

梅のおしべを刺すのがこの日のメインである。花糸の部分は、織り目を数えて、バックステッチを九回。「いま三回。あと六回ね」「違う、違う、もう一本手前じゃないかな」。

手の動きを止めて、お互いに教え合う。数え間違えないように、

時々裏を見ながら細心の注意が払われる。「バックステッチは糸をちゃんと引いてください。緩いと蛇行しますよ」と、講師の手芸家、

無地の布に針通し
華やかな壁掛けへ



吉田令子さん(59)がいていねいに指導して回る。おしべの先端の花粉が入った四つの袋は、ロドスステッチという糸を重ねるステッチで強調される。完成までには、もう少し時間がかかりそうだ。
同会は、一九九六年、市民館主催の成人学校「春に向けてのさわやか刺しゅう」の受講者有志で発足。区限刺しゅうは、フランス刺

しゅうなどと違い、図案を写さないで織り糸を数え模様を構成していく技法である。初心者でも経験者でも、同じように仕上がるのが魅力という。

当初から参加している斎藤澄江さん(70)は「自分のモノにするのはなかなか難しい。手を動かすのは頭の体操になるし、楽しいから続くんですよ」と笑顔で話す。

杉浦当枝さん(67)は「こういう会に参加したのは初めて。なるべく休まないようにしています。ものをつくるのは楽しいです」と、手作りの喜びを語る。

手芸は初めての阿部昭子さん(57)は「買えばなんでもある世の中ですが、自分が作ったものはひとつ。家族も褒めてくれるし、達成感があります」と楽しそう。向当さんも「もともと手仕事が好き。この刺しゅうは目の粗い生地を使うので、いつまでもできます。続けるのが夢です」と意欲的。

連絡は ☎(955) 7841の向当さん(FAXなし)。

文 / 小誌・北川春江
(カメラ / 小誌・菅原純子)

仲間と楽しむ 学ぶ 活動する 生き生きする

学習・文化情報

魅力的な催しがある

催し



「宮前ハートフルバザール◆宮前市民館広場」11月13日(土)11時から。衣類、家庭雑貨のリサイクル品の販売▽模擬店▽精神保健相談。雨天は14日(日)。収益は、宮前区内精神障害者作業所、グループホームの運営助成、精神保健・福祉の活動資金に充てる。 〇9〜17時に(854) 1156のトゥーランプラン宮前。宮前区の精神保健と福祉を考える会主催。

「上映会〜1970年代のATG映画◆市民ミュージアム」11月6日〜12月12日の毎土・日曜。作品は「あらかじめ失われた恋人たちよ」(田原総一朗・清水邦夫監督)「書を捨てよ町へ出よう」(寺山修司監督)「音楽」(増村保造監督)「変奏曲」(中平康監督)「あさき夢みし」(実相寺昭雄監督)「股旅」(市川崑監督)「竜馬暗

市外局番のないものは044

学習・文化情報

殺」(黒木和雄監督)▽「呐喊」(岡本喜八監督)「本陣殺人事件」(高林陽一監督)「不連続殺人事件」(曾根中生監督)「西陣心中」(高林陽一監督)「曾根崎心中」(増村保造監督) 〓写真。上映開



始時間は13時半などまちまち。大人500円、小学生300円、10枚つづり券4千円。 〇(754) 4500の同館。

「公開シンポジウム〜二つの世紀末と日本・アジア◆和光大学」11月27日(土)13時半から。「大アジア主義思想から大東亜共栄圏

へ」と題し、原田勝正・同大経済学部教授▽「日本企業のアジア進出とアジア認識」と題し、山村睦夫・同▽「横浜中華街と二つの世紀末」と題し、伊藤泉美・横浜開港資料館研究員が問題提起。無料。申し込み不要。 〇(044) (989) 7478の同大総合文化研究所。鶴川駅下車。

「かながわ親業フォーラム◆横浜市鶴見公会堂」11月27日(土)13時から。第一部「聞かせて！子ども思い」をテーマに公開討論会。パネリストは西野博之・フリスペース「たまりば」

代表ほか▽第二部「率直な自己表現で人間関係を深めよう」と題し中井喜美子・茨城大講師が講演▽第三部は分科会。1・2部券600円、同学生券500円、全体券900円。 〇(070) (5865) 2708のかながわ親業研究会(主催)。会場は鶴見駅下車。

「姉妹都市ウーロンゴン

市ボランティアアホームステイ家庭を募集◆市国際交流協会」滞在期間は来年1月16日(日)〜2月12日(土)27日。参加者はウーロンゴン大日本語学科の学生。応募資格①2人以上の家族がいる②国籍を問わず外国人を家庭の一員として迎えられる③一人部屋の提供。謝礼は1泊千円。 〇(435) 7000の同会・林さん。

「①わくわく実験ショー〜視覚と錯覚②ガリレオ工房科学実験教室〜AMラジオをつくらう◆東芝科学館」①は11月13日(土)。テレビで利用している錯覚の技術を紹介②は11月27日(土)。電池の要らないラジオを作り仕組みを探る。講師は島津理化機器の杉本優子さん。いずれも10時と13時半から。無料。定員は先着各①250人②50人。 〇(549) 22000の同館。川崎駅からバス。

「ダンスパーティー◆川崎市民プラザ」11月27日

(土)18時半から。「スイング・ジョーカーズ」の生バンド。前売りは(8088) 3131の同館で千800円。当日2千円。先着150人。「クリスマス親子劇場◆会館とどろき」12月5日(日)10時半と13時半から。「小さなスズナ姫」を人形劇団「ひとみ座」が公演。4歳以上700円。先着各300人。 〇(11月15日(月)から(733) 3333の同館。

「①やってみよう会②さいわい地域セミナー③音楽会〜吹奏楽がやってくる◆幸市民館」①は11月28日〜12月12日の毎日曜13時半から。クリスマス会の企画と準備。対象は障害のある青年とその家族。保険料500円。先着20人②は11月28日(日)来年1月16日(日)12時半から。幸区をモチーフにしたはがき絵を作る。教材費千円。先着20人③は11月28日(日)13時から。同館利用団体が出演する地域に密着の演奏会。無料。先

学習・文化情報

参加したい催しがある

着5百人。①11月7日(日)②14日(日)10時から(541)3910の同館③は17日(水)9時から同館で入場券配布。

「ダンスパーティー◆麻生老人福祉センター」12月13日(月)13時から。気軽な雰囲気。対象は市内在住の60歳以上。費用200円。先着150人。①11月15日(月)から費用を添え来館。(966)8956。

「地域セミナー」外国の家庭料理を学ぼう◆多摩市民館」11月27日(土)10時から。中国、フィリピンのおふくろの味を調理。材料費900円。先着20人。①11月20日(土)10時から(935)3333の同館。

「天体観望会◆川崎産学園」11月20日(土)18時半から。月面、木星、土星を観望。雨天はパネルシアターとスライド。無料。小学生以下は要保護者。①(954)5011の同園。新百合ヶ丘駅からバス。

「中身館フェスティバル◆中部身体障害者福祉会館」11月21日(日)10時から。

バザー、身障団体・ボランティアグループの活動紹介。雨天決行。①(733)9675。

「市消費生活展◆川崎駅地下街アゼリア」11月20日(土)10時から「みんなで生活を見直そう」をテーマに消費者団体の展示、実演。①(200)2262の市消費者行政センター。

「ダンスパーティー◆宮前老人福祉センター」12月4日(土)13時から。夜の舞踏会の雰囲気。対象は市内在住の60歳以上。会費500円。先着男女各40人。①11月17日(水)9時から会費を添えて来館。(877)9030。

「フォーラム」生ごみ・剪定枝のリサイクルと環境保全型農業◆県高津合同庁舎」11月15日(月)13時半から。県農業振興課・藤原俊六郎さんの話マパネルディスカッション。パネラーは農業従事者や市環境局環境企画室の石渡和夫さんら。無料。申し込み不要。①(955)2533の川崎・こみを考える市民連絡

会(主催)。

「プラザ橋まつり◆プラザ橋」11月26日(金)〜28日(日)。水墨画、クレイクラフトなど14団体の作品展示マ親子算数クイズラリー、アレクジメントフラワーなどの実演&体験&講習会。事前に申し込み催しあり。①(788)1531の同館。

「①星を見るタベ②天体写真撮影会◆市青少年科学館」①は11月13日(土)20時(17時半から)月(月齢5)、木星、M31を観察。無料。②は12月19日(日)19時から。木星を撮影。対象は小学5年以上。先着14人。雨・曇り中止。持参品あり。いずれも小学生以下は要保護者。①(922)4731の同館。

「観察会◆生田緑地」11月14日〜12月5日の毎日曜9時50分、市青少年科学館に集合。シダ、昆虫、キノコの自然案内。無料。申し込み不要。①(922)4731の同館。

「子どもの幸せを考えるつどい◆麻生市民館」12月4日(土)13時から。テーマは「遊びと居場所」子どももおとなも言ってみよう聞いてみよう。参加自由。①(951)3000の同館。

「わら細工」ミニ門松◆日本民家園」11月27日(土)10時から。対象は小学〜高校生。無料。先着10人。①11月2日(火)から(922)2181の同園。

「わら細工」しめ縄①「ぼうじめ②輪かざり◆日本民家園」①は12月12日(日)②は19日(日)。いずれも10時から。各千円。30人、抽選。①11月29日(月)②12月6日(月)までに往復はがきに教室名、住所、氏名、年齢、を記して21410032杉形7の1の1、同園。(922)2181。

「①いけばな展示②サクソフォンの調べ③古民家で聞く昔話◆日本民家園」①は11月6日(土)7日(日)9時半から。7日(日)13時から。実演会②は11月20日(土)13時半から。サクソフォンカルテットさくらが演奏③は

11月21日(日)13時半から。市内にまつわる民話、全国の物語を上原千夏さんが語る。いずれも無料。①(922)2181の同園。

「ふれあいダンスの集い◆白幡台小」11月28日(日)14時から。東京キューバンボーイズ・ジュニアの生演奏。茶菓子代千円。当日直接。①(977)8600の白幡台こども文化センター。清ノ口駅からバス。

ステージ

「①靴金曜寄席②マリンバ&ピアノ&ベースのタベ靴ホール他」①は11月5日(金)19時開演。会場は同ギヤラリー。出演は林家錦平。前売り千300円②は同13日(土)19時開演。マリンバは荒瀬順子、ピアノは北條直彦、ベースは竹内秀雄。ピアノ「忘却」他。3千500円。①(812)6090。清ノ口駅下車。「聖マリアンナ医科大学管弦楽団秋の玄関コンサート」写真①◆同大学院」11月21日(日)14時開演。

学習・文化情報

ききたい音楽がある

指揮は岩村力さん。プロコフィエフ「ピーターと狼」他。無料。☎(977)8111の岩下さん。



「川崎混声合唱団定期演奏会◆麻生文化センター」11月14日(日)14時開演。指揮は相原末治。混声合唱とピアノのための組曲「風が吹くと」▽懐かしい歌他。千円。☎(722)2101の鈴木さん。

「中国民族音楽の祭典」孟暁亮 打楽器リサイタル◆麻生文化センター」11月13日(土)17時半開演。中国古来の打楽器、編鐘の演奏など。「陽関三畳」他。前売り2千5百円。☎042(734)7937の安達

さん。

「洗足学園定期演奏会①シンフォニックウインドオーケストラ②合唱③管弦楽団◆同園前田ホール」①は11月12日(金)。R・シユトラウス「サロメの踊り」他②は11月16日(火)。フォーレ「レクイエム」他③は11月19日(金)。ブラームス「大学祝典序曲」他。開演時間はいずれも18時半。千円。☎(856)2981の同大演奏部。溝ノ口駅下車。



「千葉純子Ⅱ写真Ⅱヴァイオリンリサイタル◆糀ホール」11月13日(土)14時開

演。ヘンデル「ソナタ第6番ホ長調」他。全自由席2千円。溝ノ口駅下車。☎(812)6090。



「ソプラノ(杉村八重・ピアノ(金井泉乃)ジョイントコンサート◆サカモト・ミュージック・スクール鷺沼校」11月14日(日)14時半開演。ブッチーニ「愛の物語」、シューマン「謝肉祭作品9」。2千円。事前に☎(854)6581へ。鷺沼駅下車。

「ランチャタイムコンサート◆川崎市役所第3庁舎ロビー」11月17日(水)12時15分開演。出演は栃本美津子(バイオリン)、佐々木秋子(ピアノ)。クライスラー「愛の喜び」「美しきロマリン」他。無料。☎(222)8821の市文化財団。

「洗足学園管弦楽団演奏

会◆東京文化会館」11月26

日(金)19時開演。指揮は秋山和慶、バイオリンは庄司紗矢香。バルトーク「管弦楽のための協奏曲」他。無料。☎(856)2981の同大演奏部。上野駅下車。

「川崎市定期能楽宝生流◆川崎能楽堂」12月4日(土)。第一部は13時から。内田芳子の「井筒」▽第二部は15時半。後藤裕子の「山姥」。各3千5百円。チケットは11月4日(木)9時から同所で発売。☎(222)7995。



「99かわさき市民第九コンサートⅡ写真Ⅱ◆市教育文化会館」12月12日(日)15

時半開演。指揮は川本真司。全自由席千円。チケットは11月1日(月)10時から同会館、各市民館他で発売。☎(222)8821の市文化財団。

「川崎市民交響楽団定期演奏会◆市教育文化会館大ホール」11月27日(土)18時半開演。指揮は藤本潤。ブラームス「交響曲第一番」他。5百円。☎045(753)8578の森。

「①フランス宮廷音楽合奏団アンサンブル・フィリドル演奏会②時代の異なる2台のオルガン演奏会◆玉川学園内」①は11月18日(木)17時半開演。会場は講堂。チェンバロやバロック・チェロなど古典楽器の演奏。クープラン「コンセル第一番」他②は11月28日(日)14時開演。会場は礼拝堂。酒井多賀志さんの演奏と解説。①②とも前売り一般2千5百円、中学生以下2千円。☎042(739)8895の同大継続学習センター。玉川学園前駅下車。「アンセル・アダムの世界」プロムナードコンサ

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

ト◆市民ミュージアム
11月14日(日)13時と15時開演。今世紀のアメリカ音楽やピアノ曲の演奏。一般900円、小・大生400円。☎(754)45000の同館。

「講習会①春の七草鉢作り②正月の寄せ植え(松竹梅)◆市緑化センター」①は12月1日(水)②は12月9日(休)。時間は13時半。定員各30人、抽選。教材費①700円②4千500円。☎①は11月17日(水)②は11月24日(水)までに往復はがきに講習会名、住所、氏名、☎を記し〒214-0021宿河原6の14の1、同センター。☎(911)2177。

「講演会」女性の人權を考える◆平こども文化センター」11月12日(金)10時。性犯罪10番に携わる板谷利加子・神奈川県警本部性犯罪捜査係長が話す。無料。保育あり。事前に申し込む。☎(865)8056の堀内さん。母親クラブ主催。

ブ主催。

「福祉講演会」心の井戸を掘る◆川崎授産学園」11月20日(土)10時。ペン・セタリン東京外語大講師が講演。無料。先着50人。☎11月19日(金)までに☎(954)5011の同園。新百合ヶ丘駅よりバス。

「健康リフレッシュ講座99」転ばぬ先の杖・骨粗しょう症予防の話◆麻生保健所」11月17日(水)13時半。無料。当日先着50人。☎(965)5157の同所健康課。

「二日体験講座①煎茶道②クリスマス・テーブルアレンジメント③成人式の振り袖女袴着付け◆川崎市民プラザ」①は11月25日(休)10時と13時半。煎茶道の講義と実技。受講料千円②は12月6日(月)10時と13時半。テーブルをキャンドルや花で飾るアレンジメントを。2千500円③は12月12日(日)13時。3千円。定員は①各20人②各25人③親子30組。いずれも先着順。☎①11月21日(日)まで②は11月15日(月)から③11月22日(月)から受講料を添えてブラザフフロントへ。☎(888)3131。

「アンセル・アダムスの世界①講演会②ゾーンシステム・ワークショップ(講演と実演)◆市民ミュージアム」①は11月23日(水)13時半。「芸術家、そして推進者として」と題し、写真家アンセル・アダムスの姿をフレンズ・オブ・フォトグラフィー館長のデボラ・クロチコさんが講演。当日先着270人②は11月28日(日)13時。アダムスが考案した「ゾーンシステム」の理論を写真家の中島秀雄さんが話す。50人、抽選。いずれも無料。☎②のみ11月12日(金)までに往復はがきに住所、氏名、☎、返信部分にあて名を記し、〒211-0052等々カーの2、同館ゾーンシステム係。☎(754)4500。

「神奈川ニューライフカレッジ」楽しい服作り、はじめてみませんか◆登戸ドレスメーカー学院」11月15日(月)19日(金)20日(土)22日(月)26日(金)、時間は各日13時半。タイトスカートやキュロットパンツが簡単にできるテクニクを講習。受講料は1回千200円。先着各15人。☎午前中に☎(911)2221の同院。向ヶ丘遊園駅下車。

「中原区家庭の健康セミナー」心と体の調和をめざして◆中原区役所」11月9日(火)13時半。講師は健康運動指導士の湊真里さん。先着50人。☎(744)3256の同区役所保健所健康課。

「わたしたちのテスト教室」牛乳パックで手すきがきを作ろう◆市消費者行政センター商品テスト室」11月19日(金)と24日(水)10時。先着各10人。無料。☎11月2日(火)9時から☎(200)2262の同センター。

「リハビリ講習会◆市中部身体障害者福祉会館」11月24日(土)12月8日(日)の毎水曜13時半、全3回。対象は脳血管障害による肢体障害の人、その家族や介護者。20人、抽選。無料。☎11月18日(木)までに往復はがきに住所、氏名、☎を記し〒211-0068小杉御殿町2の114の1、同館。☎(733)9675。

「学習講座」食は医なり◆宮前老人福祉センター」11月17日(水)13時半。食材の効用と薬膳料理を学ぶ。無料。講師は管理栄養士の田辺弘子さん。対象は60歳以上。当日先着50人。☎(877)9030。

「①女性問題総合セミナー」女性問題って何?というあなたへ②政治社会参画セミナー」21世紀日本の経済構造改革◆市男女共同参画センター」①は12月3日(土)来年1月28日(日)の金曜19時と2月5日(土)13時、全8回。外国映画のシナリオを訳し、声優を演ずるワークショップを通して女性問題を体験する。講師は曾根幸子・実践女子大講師他。対象は18歳以上の男女各15人②は12月4日(土)14時。講師は三菱総合研究所の岡谷直明さん。50人、抽選。いずれも無料。保育あり。☎①は11月22日(月)②は11月23日(火)までに往

「リハビリ講習会◆市中部身体障害者福祉会館」11月24日(土)12月8日(日)の毎水曜13時半、全3回。対象は脳血管障害による肢体障害の人、その家族や介護者。20人、抽選。無料。☎11月18日(木)までに往復はがきに住所、氏名、☎を記し〒211-0068小杉御殿町2の114の1、同館。☎(733)9675。

学習・文化情報

参加したいグループがある

復はがきにセミナー名、住所、氏名、☎、保育希望の有無を記し、〒213-0001溝口2の20の1、同センター。☎(813)0808。

「公開講座①虚像の世界に生きる忠臣蔵②かなに親しむ③ハンドベル④英語教師のためのリカレントセミナー⑤小児救急法◆玉川大学」①は11月6日～12月11日の土曜14時、全5回②は11月25日～来年3月2日の木曜13時半、全12回③は11月24日(水)25日(木)26日(金)18時、全3回④は11月7日(日)10～17時⑤は11月2日(火)から火、水、木、金、土曜の5コース、各全4回。時間は土曜コース

ギャラリー

「ギャラリー幸」11月19日(金)～12月1日(水)、山の展。山に関する油彩、版画、写真など30点。木曜休廊。☎(555)8181。川崎駅下車。

「会館とどろき」11月2

スのみ9時、他のコースは17時15分から。受講料は9千～2万5千円。☎042(739)8895の同大継続学習センター。玉川学園前駅下車。

「①家庭教育学級」コミユニケーション促進in Family②麻生平和人権学級「キーワードで学ぶ身近な人権③麻生女性セミナー」公開講座◆麻生市民館①は11月27日(出)10時。「子どもと意見を戦わそう」をテーマに大人と子どもが本音で話す。進行役は子ども相談員の安達優雅子さん。先着35人②は11月10日(水)「少年法改正」マ17日(水)「出生前診断」マ24日(水)「児童買春禁止法」マ12

日(火)～7日(日)、退職教職員の作品展「書道・園芸」マ9日(火)～14日(日)、同作品展「短歌・俳句・生花」マ16日(火)～21日(日)、同作品展「絵画・彫刻」マ23日(水)～12月5日(日)、教職写真展。☎(733)3333。

「画廊ランブ屋」11月4日(木)～14日(日)、「小さな版

月1日(水)「児童虐待」マ12月15日(水)「日米カイドライ」。時間はいずれも10時。講師は坪井節子・弁護士他。先着40人③は11月13日(出)14時。「わたしを生きる」子育てをしながら」と題し、井上恵美子・愛知学泉女子短大助教授が講演。先着百人。いずれも無料。☎(11月16日(火)から②③は随時。☎(951)1300の同館。

「天文講座」クリスマスマの星の謎◆市青少年科学館「12月4日(出)16時。講師は原恵・青山学院大名誉教授。小学5年以上先着百人。無料。☎11月5日(金)9時から☎(922)4731。

画展」。作品60点マ11月26日(金)～12月5日(日)、「レリーフ展」。彫刻家松田重仁ほか6人の作品。火曜休廊。☎(945)4416。稲田堤駅下車。

「市民ミュージアム」来年1月23日(日)まで、「アー・ル・ヌーヴォー」の女性達」。百年前の女性のポスター60

スポーツ

「プラザ社交ダンス特別講習会◆川崎市民プラザ」11月27日(出)13時から。ル

点マ11月2日(火)～来年2月27日(日)、「明治ボンチ本の世界展」。明治30年代の漫画。一般300円、小く大学生100円。☎(754)4500。

「アートホール新町」11月6日(出)まで、新町小児童の「夏休みポスター展」マ11月15日(月)～12月14日(火)まで、「リバーカレント」の会作品展。陶芸、書道、絵画、写真を展示。☎(344)6444。川崎駅からバス。

会員募集

●イタリア語研究会チャオ(小竹雄次代表)イタリア好きが集まって楽しみなから勉強しています。第1～3水曜18時半から、川崎区の自治研センターで。入会金なし。1期10回で1万

ンバとチャチャの基本と応用を。受講料2千500円。男女各25人、先着順。☎(888)3131。

2千円、年間3期。テキスト代別。連絡は☎FAX(548)0076の小竹。●高津たんぼぼサークル《中山朋子代表》中国古来の心身健康法「気功」を学んでいきます。どなたでも始められます。毎週火曜9時半から、高津市民館他で。入会金不要(12月末まで)。月会費5千円。連絡は18時半～21時に☎(852)6363の中山。



福祉への役割認め

映画監督の千葉茂樹氏に毎日社会福祉顕彰を贈呈
日本映画学校副校長で映画監督、市民グループ「地球家族の会」代表の千葉茂樹さん(66)が、多摩区西生田IIが「第29回毎日社会福祉顕彰」に選ばれ、10月

初旬、その贈呈式が東京都千代田区内であった。

記録映画「マザー・テレサとその世界」「ゼノ・かぎりなき愛に」など人類愛や平和へのメッセージのじむ映画製作とボランティア活動が評価された。

千葉さんは4年前、小誌「いまを話す」のゲストになり「人間づくりの根本は家庭。地球家族は血縁を超えた共同体。みんなが役割の分担を」と述べた。今回、毎日社会福祉顕彰に選ばれたことについて「映画を通してみなさんが福祉に関心

をもってくれたことが何よりうれしい。新聞が『福祉に対して映画の役割がある』と認めてくれたことが喜びです」と笑顔で話す。

同顕彰は、毎日新聞社会事業団主催、厚生省・全国社会福祉協議会後援で、これまで市内では、川崎歯科医師会が障害者の治療で贈られている。

川崎の社会教育の足跡 10分野を500ページ超で

「川崎市社会教育五十年史」がこのほど、市教委から刊行された。同誌は、戦争のツメ跡の残る1949

年9月、川崎市に成人学校が誕生してから半世紀の足跡が記されている。成人教育、文化振興活動、視聴覚教育、市民の自主的な社会

教育活動など10章で構成、年表と資料もあり、川崎の生涯学習の歴史書。同史編集検討委員会編、B5版650ページ、6千5百円。囲園 ☎(733) 5560の生涯学習振興事業団。

●おしらせ 当欄の掲載料は無料です。締め切りは発行月号の2カ月前の末日になります。

もとや 和泉元彌の 狂言ライブ

来年1月22日(土)

午後2時開演

川崎能楽堂

(JR川崎駅東口下車)

〈出演〉 和泉元彌 和泉淳子
三宅藤九郎

〈演目〉 末広かり 鶯 ほか

全自由席3,000円

11月18日(木)10時から前売り

問い合わせ

市文化財団 ☎(222) 8821

後援/市教委、当事業団

安全・完全の幻想

編集後記

日本の安全神話が、また消えた▼茨城県東海村の核燃料加工会社のウラン加工施設で放射能が漏れる臨界事故が九月三十日にあり、多数が被爆した▼山陽新幹線のずさんな工事、阪神大震災での高速道路崩落、ああ▼外国で同様事故があると、関係者が「○○国だから起きない」と胸を張った▼自然に逆らった人間の行為に安全はない▼人間は、安全に近づける努力が出来るだけだ▼少年のころ学校で「日本帝国には生き神様がいらつしやる。鬼畜米英に必ず勝つ」と教えられたことを、なぜか思い出す▼事実をありのまま見て、自分の頭で考えたい▼さて、トルコに次いで九月に台湾で大地震▼各家庭の防災が「のど元過ぎれば熱さを忘れる」になっていないか▼飲料水、非常食の十分な確保と大型化した冷蔵庫やテレビが倒れ、凶器にならないよう自助努力を▼自民党総裁選は面白かった▼三候補から、景気回復や安全保障についての政策は聴けたが、リストラされた人や高齢者、障害者などへの社会保障政策が定かではなく、財界人からも注文が出た▼民主党の代表選も三候補で争われたが「憲法改正をして、はん自民」の人も▼その「はん」は「反対」「半分」「伴侶」のどれなの▼せめて「セーフティ・ネット論争」をしていたらイメージが上がったのに▼今号「いまを話す」は、介護保険にも言及の渡辺ひろみさん▼かつて「介護保険反対」のゲストが登場した際「市長が賛成なのに」とお叱りがあつたとか▼新制度に不十分さは付きもの▼「総論賛成・各論反対」もあれば、「他党の反対意見を飲み込み、支持率上げた小淵さん」の例もある▼福祉の現場にたずさわる方々の率直な声を謙虚に聞ける地方分権の時代でありたい(田)。

発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団
電話 044(952)5000代

FAX 215-0004

川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル
044(952)1350 編集人・田中 園